



たてやま

# おのがんまつり

南総祭礼研究会

2013.03 No.13



## 館山市長須賀 長須賀区



江戸への陸路「房総往還」沿いにある  
長須賀の古刹・来福寺

### 地域の紹介

「富士うつる鏡が浦を打ち見れば」  
潮干に遠き長須賀の里」  
その昔、建久年間に西行法師がこの地に訪れたとき詠まれたといわれています。境川と汐入川には生まれ、地名の由来「長渚」とされる砂州に形成された町場で、江戸時代には宿場町として栄え、江戸へ向かう陸路「房総往還」に沿って、数々の歴史

史的建造物をはじめ、古い街並みの面影が今も見られます。県無形文化財の唐棧織や金切鉄、鋳工芸などの伝統工芸も盛んに育んできた町であり、さらに電話局や東京電力、館山の天気予報が発信される「館山測候所」(二〇〇六年か

ら「館山特別地域気象観測所」となる)等の市の重要機能が集中していることも長く館山の中心地であった裏付けといえるでしょう。現在は、八つの町内で構成され、総世帯数実に千三百世帯を誇る市内でも屈指の地区です。

近世画



- 神社名…熊野神社
- 棟梁…石井五郎
- 彫刻…後藤義孝
- 鋳…滝川正郎
- 制作年…昭和三十年
- 提灯…獅子に牡丹
- 彫り物…前方破風の鳳凰、柱に獅子に牡丹
- 仕組み…舞台繰り出し方式

### 自慢の屋台

長須賀の屋台は子供たちにもお祭りを楽しませようと昭和三十年、町内の熱い思いと多額の浄財によって製作されました。市内でも一、二を競う大きさと、前方破風に据えられた迫力ある鳳凰がまず目を引きまします。さらに舞台が前方へとせり出す方式は新しく、当初は芸者が踊り、祭りに華を添えていましたが、その後館山・仲町から伝授された「びつとこ踊り」が定着し、今やすっかり長須賀の文化となり子供たちへと伝えられています。

青柳日枝神社の御神木を材料に、石井五郎棟梁、彫師後藤義孝、鋳職滝川正郎による匠の技を極めた屋台は、平成十七年の改修を経て現在に至ります。また青柳日枝神社の御神木は改修後も提灯の短冊として今も屋台を守り続けており、神輿の襷、屋台の内幕には唐棧織が使われているなど、過去から現在へその技と心意気が神輿、屋台を通じて伝えられています。

長須賀屋台の祭半纏



房州後藤流彫工後藤義孝による  
みごとな屋台彫刻

